

第 56 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日時：令和 6 年 2 月 1 日(土)13:00～17:00

場所：佐土原総合支所 2 階研修室

参加者：

□市民：11 名

□宮崎海岸市民連携コーディネータ：

吉武教授（九州工業大学）

高田准教授（兵庫県立大学）

□行政関係機関：

（国）宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所、宮崎港湾・空港整備事務所

（県）河川課、港湾課、中部港湾事務所、宮崎土木事務所

（市）佐土原総合支所建設農林課

実施内容：

事務局より開会の挨拶、国、県、市、コンサルタントの出席者の紹介を行った後、高田宮崎海岸市民連携コーディネータ（以下「コーディネータ」）の進行により談義が進められた。

まず、事務局より「第 55 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」「第 24 回侵食対策検討委員会の報告」を説明し、談義を行った。

さらに、「今後の侵食対策について」を説明し、(1)～(3)のテーマごとに談義を行った。

- (1)先行着手箇所について
- (2)住吉エリアの方向性について
- (3)これからの効果検証について

※会議の開催前 1 時間程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

第 55 回宮崎海岸市民談義所の振り返り

第 24 回侵食対策検討委員会の報告

[コーディネータ]

- ・委員会にオンラインで出席し、市民談義所が出た市民の思いを委員会に伝えてきた。委員会での議論を受け、施設整備を行わず、養浜のみで浜幅を確保することは難しいと感じたところである。一方、「小突堤 7 基」という対策については、あくまで検討のスタートであり、すべて整備すると決まったわけではない、ということは委員会の中でも繰り返し確認されていた。

[参加者]

- ・前回市民談義所で「総合土砂管理について資料に記載がなくて残念」という意見があった。流砂系の総合土砂管理の会議が近々開催されるという連絡を受けたので、情報共有する。

[事務局]

- ・今年度中に、総合土砂管理に関する会議を開催し、総合土砂管理に関する取り組みの実施状況を報告する予定である。小丸川は総合土砂管理計画を策定済みであり、引き続き大淀川の総合土砂管理計画の策定に向けて会議で議論される予定である。

[参加者]

- ・大淀川の流出土砂を増やしても、北側の宮崎海岸に土砂が到達することは考えられない。宮崎海岸のことを考えるなら一ツ瀬川の総合土砂管理の検討を進めるべきである。

[事務局]

- ・中部流砂系には主に4つの河川(耳川、小丸川、一ツ瀬川、大淀川)があり、それぞれ総合土砂管理計画を立案することになっている。耳川、小丸川については策定済みであり、現在は大淀川について主に議論していることを報告した。一ツ瀬川についても検討は実施中であるが、現状把握のためのデータ収集等がほかの河川と比較してやや遅れており、計画策定には至っていないが今後検討していく予定である。

[参加者]

- ・市民談義所ができた当初に、一ツ瀬川河道(堰堤やダム)に土砂がたまっていることを指摘し、この状況を改善すべきであると提言してきた。現段階で進みが遅いことを残念に感じる。

[コーディネータ]

- ・総合土砂管理は対象範囲が広く、自然科学的な事項の情報収集や、関係者も多岐にわたり合意形成などにも時間がかかると認識している。一ツ瀬川の総合土砂管理の検討のスピード感について、不足に思うことはあるかもしれないが、検討がはじまり、現在進んでいることはこの市民談義所でも出された市民からの意見も一助になっていると考えられるため、残念だとは感じてほしくない。

[参加者]

- ・第24回委員会の議事概要で、「小突堤の先行着手は了承された」と書かれて

いるが、これは小突堤をどこかに作るということが決まったということなのか。
これから、小突堤を作ることに向けて動くということなのか。

[事務局]

- ・動物園東エリアの早期の砂浜回復・住吉 IC 保護などの観点から小突堤 1 基のみについて整備を進めることを提案し、委員会です承された。具体的な施設の規模感や景観、工法等については本日の市民談義所で談義したい。

[参加者]

- ・「委員会の了承」というのは「決定」ということで良いのか。

[コーディネータ]

- ・小突堤 1 基の整備を進める方針については決定ということで、具体的な施設の詳細について本日の談義の結果をふまえ決めていくということで良いか。

[事務局]

- ・そのとおりである。

[参加者]

- ・内陸への塩害や、生態系への影響等についても配慮して事業を進めていただきたい。

[参加者]

- ・50m より短い突堤の整備については漁業者からの反対は 100%ないのか。工事に入ってから反対意見が出るということがないか心配している。

[事務局]

- ・委員会には漁業者も委員として参加している。令和 6 年 3 月の第 23 回委員会、12 月の第 24 回委員会では堤長 50m の突堤の整備について説明をしており、これらの会議中で、50m の長さの突堤については漁業者の反対意見は出ていない。

[参加者]

- ・すでに突堤が 3 基できていて、その突堤によって砂はたまっていない。にもかかわらず、小突堤を追加で 1 基つくと砂がたまるという理屈が理解できない。学識者に説明をお願いしたい。

[コーディネータ]

- ・すでにできている 3 基の突堤は、効果がないのかという点と、新しく追加する小突堤によりどのような効果が想定されるのかという点の 2 点について確認

できればと思う。

[学識者]

- ・すでにできている突堤の基部には、まったく砂がたまっていないというわけではない。ただし、この位置にこれ以上の砂浜ができるためには、突堤をさらに延伸しなければならない。当初の計画では突堤を 300m まで延伸することになっていたので、現在の長さではこの程度の効果になる。
- ・今回追加で小突堤を整備しようとしているところは、すでに突堤を整備している住吉エリアと比較すると陸側に引いたところに汀線があるため、砂の溜まりやすさの環境は住吉エリアとは異なる。

[参加者]

- ・今回小突堤を追加している箇所のすぐ隣に補助突堤②があり、ここに砂がたまっていないのに、小突堤を追加するとたまるという理屈が分からない。

[学識者]

- ・補助突堤②の周辺は砂が付いているときもあれば付いていないときもあるという状況だと理解している。引き続きモニタリングしていかなければならないと考えている。
- ・小突堤の追加を検討している位置と補助突堤②では状況が異なる。数値シミュレーションを実施した結果、小突堤を追加すると効果があるということを確認している。

[参加者]

- ・想定している効果を可視化していただけると市民にも良くわかるのだが。

[学識者]

- ・本日、事務局のほうで小突堤を 1 基追加した場合の景観シミュレーション結果の動画を準備していると聞いている。今後こちらに、地形の将来予測シミュレーション結果等も追加していけるのではないかと考えている。これらの資料を見て判断していただければと思う。

[参加者]

- ・資料 2 p. 16 に掲載されている一ツ瀬川から海に流れてくる砂の量というのは、どのような方法で計算しているのか。今年、石崎川の河口に砂が大量にたまった。どのように流れてきたのか気になっている。河川から供給されている土砂の量が、アカウミガメの上陸・産卵環境に大きく影響を与えると感じたため、どのようなことが河川から出てくる土砂量に関係するのか知りたい。

[事務局]

- ・一ツ瀬川から海に流れてくる砂の量は、一ツ瀬川の中での河床変動計算の結果である。河道内をどのように土砂が動くかという計算結果である。

[参加者]

- ・川底に溜まった土砂の増減を川の流れて計算するという理解で良いか。

[事務局]

- ・そのとおりである。なお、現在設定している数値のもとになるデータはやや古いということもあり、現在、総合土砂管理の検討で精査・再検討中である。

[参加者]

- ・資料 2 p. 20 について、水理模型実験をさらに進める計画はあるのか。

[事務局]

- ・模型実験は、発生できる波の装置など限られた条件の中で、求める結果に対する再現性の確保が難しいため、今後の実施については慎重に検討したい。

[参加者]

- ・目標浜幅 50m は、事実上達成が難しいのだと理解している。第 24 回委員会でも目標を変えるのか変えないのか、議論になっていた。浜幅 50m を目指すのはいいが、できないことを前提に検討を進めないと、小突堤 7 基の整備案は根拠を持たないものになるのではないか。
- ・水理模型実験は、砂の粒径に縮尺を合わせられないため難しいと思う。それよりは、現在ある 75m 突堤は設置から 10 年程度たっているため、周辺の地形変化実態を調べて検証したほうが良いと思う。

[コーディネータ]

- ・現在の委員会では、住吉エリアは、目標浜幅 50m の達成は難しいが、一方、大炊田や動物園東については達成できそうというように 2 つの区域に分けて議論している。
- ・現在委員会です承されたのは、小突堤を動物園東エリアの南側に 1 基整備することのみであり、全体で 7 基整備するのかどうかはまだ決まっていない。このことを前提に、談義を進めていただきたい。

「今後の侵食対策について」の談義

※付箋紙を用いたワークショップ形式で談義を行った。事前に付箋紙を参加者に配布し、テーマごとに質問・意見・提案・想いなど記入してもらい、会場に設置した用紙に付箋紙を貼り付け、その付箋紙を見ながら談義を行った。

※3つのテーマごとに区切って談義した。

■談義の項目

- ①先行着手箇所について
- ②住吉エリアの方向性について
- ③これからの効果検証について

■談義の進め方

- 侵食対策等について、みなさんに質問・意見・提案・想いなどを付箋紙に書いて頂きます
- 付箋紙を見ながら談義します

付箋紙:質問・意見・提案・想いなど

- ・先行着手箇所の対策に関する質問・意見・提案
- ・住吉エリアの方向性に関する質問・意見・提案
- ・効果検証に関する質問・意見・提案
- ・対策の実施において利用・環境などで配慮してほしいこと
- ・宮崎海岸に関する想いなど

【先行着手箇所について】

[参加者]

- ・突堤を整備するということが決まってから市民談義所で「どうでしょうか」と聞かれても、反対することもできない。了承するだけの場になっている。市民から他の工法等について提案を投げかけても無視されている。市民談義所の意味がないのではないか。

[事務局]

- ・市民談義所が出た意見、例えば工法の提案や透過構造などについても、技術分科会にしっかりと伝えている。それらの市民の意見も踏まえたうえで技術検討し、動物園東エリアの砂浜回復のためには小突堤が必要という結論になっているところである。

[コーディネータ]

- ・コーディネータの立場で、事業主体に対して市民談義所が出てきた様々な工法等の提案を投げかけ、できる・できないの判断をしてもらってきた。その検討のプロセスが見えにくかったというのはあるかもしれないが、市民談義所の意見はコーディネータが引き受けて、事業主体や専門家に伝えている。
- ・結論として、当初の国交省案と大きく方向性が変わっていないため、これまで

出した意見は無駄だったのではないか、初めから決まっていたのではないかという意見が出るのは納得できる。ただし、市民の意見を事業主体が真摯に受け止めて対応しているとコーディネータの立場では感じているところでもある。

- ・「コンクリート構造物以外の方法を考えるのが委員会ではないか」という意見も出ているが、これについてはコンクリート以外の工法についても検討の対象になるということで良いか。

[事務局]

- ・今回市民談義所が出た意見について、専門家に投げかけて、検討していきたい。

[参加者]

- ・当初の突堤 300m 整備の計画ができなくなった時点で、突堤を増やすことを考えるよりはゼロから対策を考え直したほうが良いのではないか。

[コーディネータ]

- ・住吉エリアについては、委員会の議論でも同様に突堤以外の対策を含めて検討する方向になっている。次のテーマで議論したい。

[参加者]

- ・委員会の了承を得たら、市民談義所での合意形成なしに説明だけで事業を進めるのか。

[コーディネータ]

- ・昨年度から様々な意見があり、そのことについては委員会に伝えてきた。
- ・宮崎海岸トライアングルにおける市民の役割は、多様な意見を言って議論を深めることであり、これを受けて責任を持って意思決定をするのは事業主体である。
- ・もっと時間があれば、さらに議論を深めることもできるが、時間に制限がある中でできる限りのことをやっているというのが今年度の状況である。

[事務局]

- ・合意形成は非常に重要だと考えており、本当は市民談義所で「突堤整備やむなし」という合意が得られるまで対策を決めたくないという気持ちはある。ただし、実際には時間の制限がある。これから先、談義の時間を取るため、突堤の先行着手を決める委員会の開催がどれだけ延ばせるかについて、持ち帰って検討したい。

[コーディネータ]

- ・市民談義所の意見としては、これまでの議論で、砂が海岸から流れ出ていくこ

とに対して対策をするということについては反対ではないということではないかと思う。ただし、その対策として小突堤の効果があるのかということが見えないということや、コンクリート構造物が増えてしまうということに不安があるのではないかと思う。

- ・これから実施する対策の効果について、事前に完璧に予測して対策ができればいいが、海岸は現象が複雑なので、構造物をつくってから現地で効果を確認して改善しながら進めていかないといけないということを、自分としても勉強したところである。少しでも効果がある方法で進めていこうという方針を技術分科会・委員会で確認しているところだと理解している。
- ・養浜を際限なく投入できるならば、養浜だけを実施すればいいが、費用の問題からそういうわけにもいかないの、まずは先行着手の突堤を入れて効果を見ていこうという方針が示されている。

[参加者]

- ・確認だが、有料道路のインターチェンジや背後の安全性を保つためにまずは小突堤 1 基を整備しないといけないということで今の案は提案されているのか。

[参加者]

- ・補助突堤②と小突堤で囲い込んでどのようになるかという効果を見たいのか。

[学識者]

- ・突堤の位置については、侵食対策は、漂砂の下手から実施するというのがセオリーである。
- ・そもそも当初案で突堤による対策を選定した理由は、港に入っていく 20 万 m³/年の土砂を止めて、砂浜を回復させようというものである。その中で、宮崎海岸の環境・利用をふまえ、海岸線に平行な構造物を整備することは適さないと判断したため、突堤を選定している。また、なるべく構造物の数を減らすという方針で、3 基の突堤を計画した。
- ・突堤を 300m まで延ばせないということになった時、これまでの議論からしてやはり海岸線に平行な構造物は適さないと考えた。また、侵食の進行が待たなしの状況であるため、これまでどおりの突堤での整備ということで検討することとした。さらに、漂砂の下手から整備を実施するというので、すでに突堤ができている区間の次に一番下手となる位置に小突堤を整備することが良いと考えた。
- ・小突堤の整備を検討している位置は、コンクリート護岸の端であり、少しの高波で被災することもあるような弱いところである。このこともふまえて、整備位置を検討している。
- ・小突堤を整備してもすべての区間で浜幅 50m を目指すのは無理だろうというのが技術分科会の共通認識である。それでもできるだけ砂浜を残そうというこ

とで、対策を検討している。

[コーディネータ]

- ・先行着手箇所という名称は、次々に突堤を整備することが決まっているように聞こえるため、別の名称が良いのではないかとというような提案もしてきているところである。市民に対してわかりやすいよう、実態に合わせて検討していただければと思う。

[コーディネータ]

- ・先行着手については、効果が見込めるのか、ということが腑に落ちていないと思う。これをどうやって伝えていくのか、コミュニケーションを図っていくのが引っかかっているところと思う。

[参加者]

- ・突堤をつくるということを前提に進んでしまっている。現在の突堤3基で明確な効果も出ていないのに、新しい突堤をつくるというくらいなら、養浜をたくさん実施して砂をつけ、その間に検討をしてはどうか。

[参加者]

- ・先行着手箇所に突堤を整備して砂がたまるということを、学識者の説明で聞きたい。

[学識者]

- ・突堤の漂砂の上手に砂がたまるというのは、一ツ瀬川の導流堤の北側を見ても明らかである。ただし、一ツ瀬川の導流堤と今検討している50m突堤は規模が大きく異なる。
- ・海岸が豊かになるためには、沖合にも潤沢に砂がなければならぬ。住吉海岸は、昔の方に伺うと、砂州地形が何段もあるような、砂が豊富な状況であった。ところが、住吉エリアは現在では急深な地形になってしまっている。原因の一つは、護岸が前に出ていることである。全体的に砂が減っていることも原因である。
- ・一方で、動物園東エリアは沖合の地形が住吉エリアよりは浅く、埋設護岸の位置も20mほど引いた位置にある。この違いにより、大規模な堆砂は期待できないにしろ、動物園東エリアには土砂が溜まるということは力学的に十分に考えられる。

[参加者]

- ・村上先生のご感覚として、先行着手の1基をつくれれば浜幅50mは確保できると考えられるか。

[学識者]

- ・1基では難しい。経験上は2基程度でも足りないと考えている。
- ・検討のスタートである「7基」という数字にはあまり意味がなく、事業規模として最大限の数だと認識している。突堤の基数をできるだけ減らす方向で、技術分科会では検討を進めている。
- ・本来であれば、突堤を長くしたほうが効果は高い。突堤を長くできない以上、突堤の間隔を狭めて最適案を検討する。
- ・この先、突堤による対策では砂浜の回復が難しいということであれば、別の方法も含めて検討を進める予定である。

[参加者]

- ・下手というのであれば、現在先行着手箇所として示されている動物園東南端よりももっと南側なのではないか。
- ・アカウミガメ保護の立場では、補助突堤②と先行着手の小突堤で囲った中に砂浜がどのくらい溜まるか関心があり、先行着手をするのであれば今の位置で賛成である。
- ・養浜についても、海中養浜も含めて今後も継続して実施していただきたい。

[参加者]

- ・突堤の上手側(北側)の海岸に砂がたまるというのは理解できた。突堤の下手側(南側)の海岸は砂が減ることか。下手側(南側)の海岸は見捨てるということか。

[学識者]

- ・下手側(南側)の海岸には、なんらか手当てをすることを考えていく。大きな粒径の養浜等が考えられる。

[参加者]

- ・補助突堤①と補助突堤②の間も、過去と比較して砂浜が付いている。下手側についても砂が付くということがあり得ると思うので、現地で検証していただきたい。

[参加者]

- ・小突堤をつくろうとしている位置は、堤防が凹んでいるので、その分突堤を長くするということはできないのか。
- ・個人的には構造物はつくってほしくないが、どうせつくるのであれば少しでも効果の見込まれる長さのものが良いと考える。

[事務局]

- ・令和6年3月の委員会で50m程度の堤長の小突堤で整備、という方向性が示され、12月の技術分科会でも堤長を伸ばす、という話にはなっていないことを踏まえ、現段階ではおおむね合意されている堤長50m程度で進めていきたいと考えている。

[参加者]

- ・合意ということなので決定ではない、と理解している。既設突堤が75mであり、補助突堤①、補助突堤②が50mで効果がないのであれば、伸ばすことも考えなければならぬのではないかと。漁業関係者からの反対の内容が分からないが、長くしたほうが効果があるのであれば長くするべきではないかと。

[事務局]

- ・検討のスタートの条件として堤長50m程度としており、動物園東エリアよりも北側については、50m程度の小突堤と養浜で浜幅50m程度の確保と維持ができることをシミュレーションで確認しているところである。50m程度では効果がない、ということが明らかになれば考える必要はあるが、今の状況では堤長50m程度で進めていきたいと考えている。

[参加者]

- ・護岸が陸側にあるのであれば、堤長を長くしてもよいのではないかと。突堤の先端の位置をそろえるという考え方はないのか。堤長50mにこだわる必要はあるのか。

[事務局]

- ・(3Dモデルをスクリーンに投影しながら説明)小突堤と養浜でシミュレーションでは浜幅50m程度を達成できるため、この程度の堤長で十分と現時点では考えている。

[学識者]

- ・突堤を長くすれば、突堤の間隔を広く取れるというメリットがある。一方で、長くすると下手側(南側)への影響が大きくなるかもしれない。慎重に検討する必要がある。

[参加者]

- ・突堤50mというのは、漁業者が操業の邪魔になるからということで決まっているものだと思う。先端の位置が補助突堤と同じ位置だったら、操業の邪魔にならないのではないかと。

[事務局]

- ・突堤の長さについて検討していくことは可能である。

[コーディネータ]

- ・市民からは、作るのであればできるだけ長い突堤を、という意見が出たということなので、これは事業主体として受け止めてほしい。

[参加者]

- ・宮崎海岸は、通常は北からの波が入ってくるが、台風期は南東からの波が入り、砂が行ったり来たりする環境である。南東からの波の際に、突堤区間にたまっている土砂が動物園東に戻らなくなり、侵食が激しくなると思う。侵食されてから補強するのではなく、事前に補強するのが望ましいと考える。補強として、サンドパックを置くというアイデアもあるのではないかと思う。

[事務局]

- ・おっしゃるとおりなので、検討の参考にさせていただく。

[参加者]

- ・突堤整備に関わる費用は、いくらか。

[事務局]

- ・堤長 50m では 8 億円/1 基である。

[参加者]

- ・養浜はいくらなのか。

[事務局]

- ・宮崎海岸の事例ではなく、一般的な費用として、3~4 千円/m³である。1 万 m³あたり 3~4 千万円である。

[コーディネータ]

- ・前回の談義で、「コンクリート構造物ができるのが嫌というよりは、コンクリート構造物ができるのに砂浜がつかず、コンクリート構造物だけが残るという状態が嫌だ」というご意見があった。皆さんも同様の意見なのか、砂がついたとしてもコンクリートのガラガラした構造物ができること自体が嫌なのか、たとえば素材の工夫次第で受け入れられるのか、聞かせていただきたい。

[参加者]

- ・コンクリートではない素材での突堤整備について検討できるのであれば、検討

していただきたい。

- ・県内の海岸では消波ブロック上の砂の陥没事故もあり、コンクリートの構造物ができるということに安全性の面で不安を感じている。立ち入り禁止にしても、夜間の管理はできないため、無意味だと考えている。

[参加者]

- ・技術分科会に、景観の専門家が参加していると思うが、整備予定の小突堤についてはどのような意見を持っているのか。

[事務局]

- ・景観の専門家は効果検証分科会に参加している。3月の効果検証分科会で確認したい。

[コーディネータ]

- ・専門家が、どのように考えて計画検討をしているのかということについて説明があった。専門家もできるだけ構造物を減らすという考えや、環境や利用に配慮するという部分についてはきちんと持っている。だからと言って、対策案について納得できる・唐突感がなくなるということではないと思うが、皆さんの意見は大事だと思っていることについてはご理解いただきたい。

【住吉エリアの方向性について】

[参加者]

- ・どのような意見を求められているのかわからない。

[事務局]

- ・浜幅が確保できない状況になるとした場合、どのような対策が考えられるのかについて、利用等の観点から意見をいただきたい。

[コーディネータ]

- ・住吉エリアの今後の目標設定につながるような、ここは変えてほしくない、こんなふうになってほしいなど、環境面や利用面での意見をいただければと思う。
- ・今回に限らず、継続して意見をいただきたい。

[参加者]

- ・自分が学生だった2～30年前は、住吉エリアはアカウミガメの産卵が最も多かった場所である。近年、住吉エリアはわずかに砂浜がついているが、狭い砂浜でもブロックの隙間にアカウミガメが産卵したケースがある。カメは住吉エリアを好んでいるのではないかと思う。

[参加者]

- ・目標浜幅は、潮位によって変わると思うがどのような状態で定義しているのか。たとえばアカウミガメの産卵を考慮するならば、大潮の満潮時でもアカウミガメの産卵に必要な〇m を確保するというような目標設定もあるのではないか。

[事務局]

- ・宮崎海岸の浜幅の定義は、護岸の区間は天端の海側の肩から、自然浜区間は平成 20 年当時の浜崖の肩から計測した長さである。なお、動物園東エリアは、平成 20 年当時より浜崖が後退している。
- ・潮位は T.P. ±0m のときのものである。
- ・浜幅 50m あれば、波が背後地にうちあがらないという検討結果による目標設定である。

[参加者]

- ・今ある突堤について、来た人が楽しめるような工夫ができないか。
- ・一ツ葉 PA に来た人が、海を見て「きれい」と感嘆しているのを何度も見ている。
- ・乗馬コースに取り入れる、先端に鳥居を整備するなど、何か利用ができれば、観光資源にもなると思う。

[参加者]

- ・人工リーフなどの海に沈んだ構造物があると、アカウミガメにはどのような影響があるのか。上陸・産卵はできるのか。

[参加者]

- ・浜に近づくのは難しい。基本的には、アカウミガメは自分が産まれた浜に戻る。

[参加者]

- ・人工リーフなどの海に沈んだ構造物がある場合、サーフィンは可能なのか。

[参加者]

- ・赤江浜にあるような、沿岸方向の構造物が整備されるとサーフィン利用はできない。構造物はないに越したことはないが、あるとしても最低限、岸沖方向の構造物であってほしい。

[参加者]

- ・アカウミガメが産卵するために必要な浜幅はどのくらいなのか。

[参加者]

- ・満潮・干潮関係なく、常に砂浜があって、流木などのゴミが自然にひっかかるくらいの幅がないとアカウミガメは産卵しない。
- ・一般的には、満潮の渚線（ゴミがうちあがったライン）から 20m くらい内陸に産卵することが多い。

【これからの効果検証について】

[参加者]

- ・宮崎海岸には、これまで相当量の養浜を投入してきた。事業開始以降、漁獲量および魚種がどのくらい増えたのか、漁業者に確認していただきたい。

[事務局]

- ・漁獲高や漁業資源については把握していないが、宮崎海岸の自然環境の中の生物がどのように変化してきたか、あるいは変化していないのか等については調査により把握している。

[参加者]

- ・資料 2 p.7 にスケジュールとして、年度内に工事発注と記載されているが、工事前の調査計画を立てるといふことと矛盾しているのではないか。

[事務局]

- ・年度内に工事は発注するが、すぐに海域での工事に入るわけではないので、その間に調査を実施することを考えている。

[参加者]

- ・礫の浜ではアカウミガメは産卵しない。礫だと、掘ったときにバラバラと斜面が崩れるためである。高鍋でアカウミガメが産卵しているという意見もあるが、これは礫の隙間の砂のところで産卵している。

[参加者]

- ・浜幅の定義のパネルを作成して、市民談義所中示しておいてほしい。繰り返し質問がある。
- ・現在実施している対策「突堤」「養浜」「埋設護岸」に期待している効果のパネルを作成して、市民談義所中示しておいてほしい。
- ・突堤 75m が完成してから 10 年くらい経過している。この間の斜め写真に浜幅 50m 位置を示して、経時的にこれまで実施してきた対策の効果を示してほしい。

[参加者]

- ・地球温暖化については、レビュー結果を示してほしい。

その他（今後のスケジュール）

（特になし）

～コーディネータのまとめ～

[コーディネータ]

- ・先行着手箇所については、結論ありきなのではないか、これまで談義所で話してきたことが無視されているのではないかと、といった意見が出されたが、談義所で出された意見はすべて委員会等に届けており、それを踏まえたうえでベストな案ではないが、専門家や地元委員の意見も踏まえ、ここで試行的に実施してみよう、というところまで来ていることを共有した。理想的だと考えられるやり方に対し、社会条件や制約もあることや、公共事業であるため行政的な制約もあるという説明があった。談義所で出たすべての意見を踏まえながら自然条件・社会条件・行政的な条件も含めてできる対策を考えていることについて談義を行った。
- ・突堤の長さの議論では、構造物・人工物・コンクリートはなるべく最小に、入れるとしても景観に配慮して宮崎海岸の風景に馴染むような自然のもので対応できないのか、といった意見が出された。構造物を入れるとしても、最小の構造物で最大の効果が得られる方法を考えてほしいということが重要な意見だと思う。突堤の長さについても50mにこだわらず、既設突堤の先端位置まで伸ばすことを検討してはどうか、という意見も出された。
- ・住吉エリアについては、指標としてウミガメが産卵できるような環境を担保することが一つ挙げられ、それ以外の多様な価値もあると思うのでこれからも意見を出していただき、目標設定に繋がればと思う。
- ・効果検証については、ウミガメに対する礫の影響は一つの指標になるという話があった。さらに、工事発注と工事着手、モニタリングの関係についても説明があった。宮崎海岸では実施し、その効果を確認しながら進めていく宮崎海岸ステップアップサイクルで進めていくため、闇雲に構造物のみ増えていくことのないように、砂浜が残るようにみんなで効果を確認しながら進めていく。これには事業主体や専門家だけではなく、市民も一緒に効果・影響を確認して行ってほしい。

[コーディネータ]

- ・今回、住吉エリアなどの利用等の話もできた。そもそも宮崎海岸市民談義所は、地域づくりにつなげるということを目指して開催してきた。市民談義所の関係の中で、砂浜の回復だけではなく、その先としての地域づくりの入り口となればよいと思う。

[コーディネータ]

- ・先行着手について大きな反対はなく、配慮する事項が共有できたと認識しているが、いかがか。

[参加者]

- ・ちょっと違うと思う。「市民談義所の目的、役割と機能」に挙げられている“市民がお互いに納得できる、手段を含めた方向性を見いだす”には至っていないと思う。

[参加者]

- ・先行着手に取り掛かってよいか、ということに関しては、今日の談義所では結論は出なかった、が正解ではないかと思う。

[コーディネータ]

- ・談義所として先行着手に関して結論は出なかったが、配慮事項については共有できた、というまとめをしたい。

[事務局]

- ・本日の議論・意見を踏まえて、3月に開催を予定している技術分科会・効果検証分科会の委員の専門家にも相談し、本日の懸念事項等も含めて4月開催予定の市民談義所でもう一度、議論・談義させてもらえればと思う。

[コーディネータ]

- ・それぞれの市民はそれぞれの立場、様々な考え方があり、それを本日は共有できた、ということである。結論が出た、出ないということは、全員が賛成、全員が反対ということであり、市民談義所は皆さんの賛同を得ることを目的としているのではないことを理解して欲しい。皆さんの多様な意見を共有・確認し、先行着手について種々の意見がある一方で、実施する場合には配慮してほしい事項を議論・共有したということが、市民談義所の役割・立ち位置を考えると、本日の成果だと思う。“市民がお互いに納得できる、手段を含めた方向性を見いだす”というところまでは到達していないが、検討・決定のプロセスはしっかりとしてほしい、ということや、検討結果をきっちりと示してほしい、ということは共通の意見だと思う。こういったことを含めて次回の市民談義所で改めて市民の皆さんに事務局の考えなどを説明し、議論・談義ができればと思う。

以 上